



第1領域

「地球規模の多様な環境問題解決の架け橋」

(地球温暖化対策と生物多様性保全等の連携の道筋を開拓)

この領域は、地球温暖化対策と生物多様性保全のバランスを考えることを目的としています。

(2011年6月までの領域)

荒廃地における森の再生

＜研究・活動名＞熱帯荒廃地における生物多様性に配慮した森林修復と環境教育

＜代表者 / 団体＞早稲田大学人間科学学術院教授 森川靖 / (財)国際緑化推進センター

世界的に、通常の植林活動では地域住民の継続的な便益がなく、植林地が持続しない例が多いなどの問題点が明らかとなっています。そのため、本プロジェクトでは、インドネシア・南カリマンタン地域で生物多様性に配慮した森林修復（緑の回廊）と環境教育などを展開しています。W-BRIDGE モデルと命名された新しい植林モデルが、他プロジェクトを実施する際の具体的な指針となると期待されます。(2009年1月より半年に1回の審査を受け、現在は新しい領域で継続中（7ページ参照）)

地域の人々と学生の交流からごみ問題を考える

＜研究・活動名＞若者世代が「環境配慮意識」を「実際の行動」に移す要因の研究およびマレーシア在住フィリピン人集落における衛生環境改善活動

＜代表者 / 団体＞早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター助教 岩井雪乃 / WAVOC「海外ボランティアリーダー養成プロジェクト（ホルネオ）」

マレーシア・サバ州・コタキナバル市において、急増しているフィリピン人移民集落でのごみ堆積問題に対して、その改善のための研究・活動を行っています。本プロジェクトは、NHKで活動内容が放映されたり、学生OB・OGを巻き込んだ各種活動が派生するなど、大きな期待と注目を浴びています。(2009年1月より半年に1回の審査を受け、現在は新しい領域で継続中（7ページ参照）)

持続可能な国内森林利用の方向性を探る

＜研究・活動名＞地球温暖化対策を念頭においた持続可能な森林利用の方向性を探る研究

＜代表者 / 団体＞慶應義塾大学大学院政策メディア研究科教授 金谷年展 / NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク

地球温暖化対策のために、森林の利用を進めることが提唱されていますが、その適正さの基準は必ずしも明らかではありません。本プロジェクトでは、我が国における地球温暖化対策を念頭に置いた森林利用の方向性を、専門家や生活者とともに協議するプラットフォームを形成したもので、木質バイオマス熱利用の重要性など政府機関の政策などにも大きな影響を与えました。(2009年7月より半年に1回の審査を受け、2011年6月に終了)



写真 上段：(森川プロジェクト)
 南カリマントン集合写真と
 ゴムノキ、マホガニー (円内左、右)、論文表紙
 中段：(岩井プロジェクト)
 現地小学校での環境教育 (左、右)
 下段：(金谷プロジェクト)
 研究発表会

2011年7月～2012年6月期

新規採択案件

株式会社ブリヂストンが定める研究領域が新しくなり、2011年4月より新たな領域のもとで公募が実施されました。

応募に当たっては東日本大震災対応案件も求めた結果、4件の被災地支援を直接目的としたプロジェクトが採択された他、W-BRIDGE プロジェクト関係者が積極的に被災地支援に関わっております。

採択プロジェクトの詳細は、ホームページにてご確認ください。

◎企業や生活者がともに自然と共生していく方法を考える

- ・企業 CSR を通じた「農山村ー都市」連携（継続）
- ・インドネシア南カリマンタン州の大森林公園における生物多様性修復（継続）
- ・若者の持続的な食意識の向上を促す農林業体験ツアー構築に向けた研究（継続）

◎資源を大切に使い循環させる仕組みを、生活者とともに考える

- ・地域連携で生み出すいばらきエコ・ネットワーク STEP3（継続）
- ・新潟県佐渡市トキ舞う加茂湖の水辺再生プロジェクト Phase2（継続）
- ・女性生活者による3R活動による地域貢献について（継続）
- ・利用者視点から見た2R（Reduce, Reuse）の普及促進に関する実証研究（新規）
- ・やんばる国頭の森の水路再生・棚田ビオトープ整備による地域活性化プロジェクト（継続）

◎2050年の視点からCO₂を減らす方法を、生活者とともに考える

- ・東北復興を契機に日本を持続可能な社会へ（新規）
- ・被災地を中心とした地域復興のための再生可能エネルギー実装に関する研究（新規）
- ・学生と地域がともに取り組む環境ビジネスの創出（新規）

◎環境保全の知見や手法を世界にひろげ、次世代とともに学ぶ方法を考える

- ・学生ボランティアと地域活性化による環境保全の連携に関する研究（継続）
- ・大震災・原発事故 VS 科学・宗教ー社会規範再形成への実証研究（新規）
- ・日本とマレーシアの国際交流による環境意識の育成（継続）
- ・豊島発 歴史、文化と環境学習融合プログラムの開発（新規）



W-BRIDGE へのメッセージ



「環境はすべからず地域の問題である」といわれます。世界、日本の各所とそれぞれに異なった様相で、環境的課題が生まれます。ですから真の問題解決は、地域で地域の住民によってでしか達成できません。最近になって従来型の、分野で区切られ、その中での精緻化を求める従来科学の反省として Sustainability Science の考え方こそ社会における科学の新しい方法であるとの流れが出てきており、将来主流になると考えられています。

W-BRIDGE プロジェクトは、まさに今の世界で養成される科学を実地に進めるものとして大きな意味をもつものです。大学の知と住民の行動の組み合わせで社会改革をボトムアップで実践するというユニークな試みを見守っていきたいと考えています。

国立環境研究所特別客員研究員 西岡秀三さん

W-BRIDGE のロゴデザインを拝見したところ、このWとBの間に秘かに二重橋がかかっていることに気づきました。この二重橋の意味が相当に大きいことなのではないかと思われ、素晴らしいプロジェクトになり得るのではないかという期待感を持っています。

ブリヂストン、早稲田大学といった世界的に著名でそれぞれの歴史を持つ、この両者が協働した横断的なプロジェクトで、かつ市民の方々も引き込んでいくという壮大なプロジェクトということにも、驚きを隠せません。

W-BRIDGE で取り組む環境問題は、まさに多様性に富んだものであって、理論・研究だけでなく一つ一つの実践がベースになるものだと思います。市民の方々も交えるということで、企業と大学の連携が、一人一人の生活者の中に何か芽生えるものになっていくようなプロジェクトになることを期待しています。

(株)NHK エンタープライズ エグゼクティブプロデューサー
松尾典子さん



アドバイザー・ボード

W-BRIDGE には本プロジェクトの趣旨にご賛同いただいた各界の専門家から構成されたアドバイザー・ボードが設置されています。研究領域・研究成果に対して随時助言をいただき、活動内容に反映しています。

(敬称略、五十音順)

- 池上清子 (環境と開発途上国問題の専門家)
- 大橋 力 (文明科学研究所長 / 芸能山城組主宰)
- 小畑秀文 (東京農工大学特別招聘教授)
- 崎田裕子 (ジャーナリスト・環境カウンセラー)
- 西岡秀三 (国立環境研究所特別客員研究員)
- 原 剛 (早稲田環境塾塾長)
- 三村信男 (茨城大学教授 / IPCC メンバー)
- 渡辺弘之 (京都大学名誉教授)